千葉外房御宿の浜辺で

調査した日
2015・2・6～2・7
報　告　者
川　口　祐　二
(0599-66-0909)

1、岩和田で3人の元アワビ海女に会う。
①天津亨子さん　　S.6年生まれ
②加田きぬ子さん　S.7年生まれ
③橋岡久江さん　　S.9年生まれ
（3人とも岩和田で生まれ学校卒業後、海女として働き、地元の人と結婚した。）

・①②の海女は、77歳ぐらいまで潜った。男女1組で舟で漁場に出て、潜水。岩和田では他人の男女1組で漁をするケースも多く見られた。①の天津さんは夫が鉄道員であったので、おじさんを雇って潜った。
・③の橋岡さんは、夫婦で出漁したが、深い所でマダカアワビを専門に採り、40年代までは、1日20万円ぐらいになったことがしばしばであった。しかし、体を悪くして56歳で海女をやめた。

2、現在は、岩和田には、アワビをとる海女はいない。最盛期（S.30～S.40）のころは、アワビ海女140人、海藻海女260人、合わせて400人ほどがいたといわれる。

3、岩和田の海女が潜く漁場は絶海の孤島のような海岸。

・岩和田七浦といわれる海食崖。海中には、潮根、黒森といった岩礁群が連なっている。そこは水深5m～10mぐらいの比較的浅い平磯で、ツノマタ、テングサ、ワカメ、ヒジキ、カジメなどが繁茂している。
・思い思いに場所を選んで海女小屋を建てて、そこへ通い潜水して漁をした。
・S30年代は4月1日から9月15日までが解禁であったが、現在は7月1日から9月15日までと短縮された。潮流の加減や天候による高波などで、期間中正味20日ほどの作業日数である。

4、岩和田の海女のスタイル

・半トウロクに磯パン
半トウロクというのは、半袖の磯着で紺絣の磯ジバン。磯パンはゆかた地が主で、好みの柄を選んで、自分の体に合わせて、手縫いしたパンツ。これで若い体の腰をぴっちり包む。

5、岩和田の海女の衰退は高度経済成長に反比例して進行した。

・海藻の需要が急減した。日本建築の壁工事に和風壁が少なくなり、ツノマタの需要が減った。カジメからアルギン酸をとることが少なくなった。ワカメは養殖ものに押される。

海藻類

海藻海女	大葉（ツノマタ）	ワカメ	カジメ	総　額
S.41	1,960トン 1,600万円	12トン 1,050万円	250トン 630万円	3,280万円
S.48	17トン 150万円	なし （自家用分）	18トン 45万円	197万円

S.41　サラリーマンの月収3万円と比べれば約10ヶ月分
S.48　海女は70%減の30人として、サラリーマンの月収9万円と比べれば1ヶ月分にもならない。

アワビ海女	アワビ	サザエ	総　額
S.41	79トン 5,900万円	17トン　600万円	6,500万円
S.48	40　9,290万円 （単価があがる）	2　140万円	9,430万円

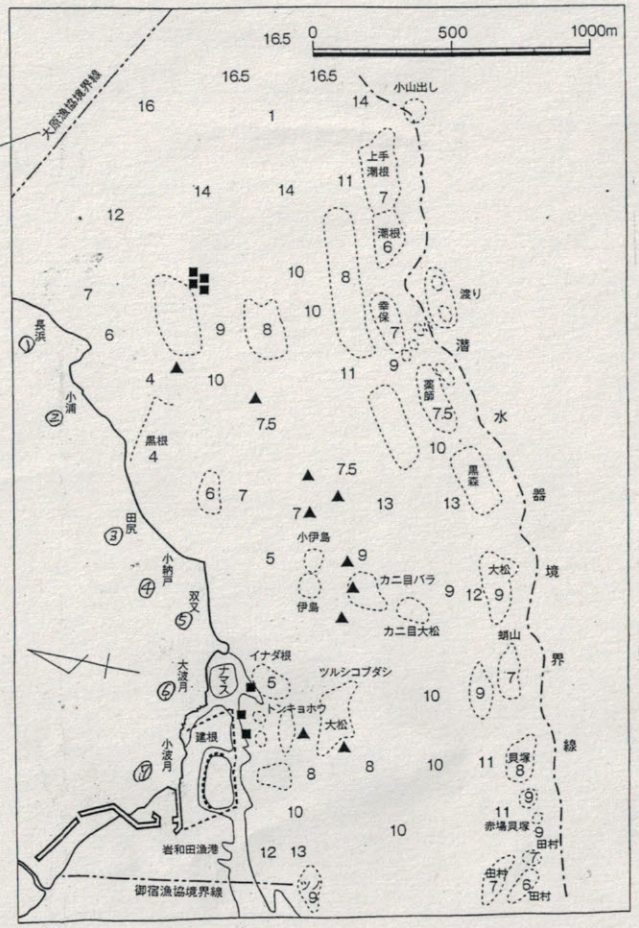
S.41　海女の数を100人とすれば一人当たり65万円、サラリーマンの月収3万円の一年半分。
S.48　海女100人で割ると一人94万円、これはサラリーマンの月収9万円の10ヶ月分に相当する。

しかし頼みのアワビも次第に減り始め、
H1、16トン（S.41年の20%）
H8、　2トン（　〃　　2.5%）
H9のアワビ・サザエの水揚高は総額3,716万円。漁協の総水揚高5億3,000万に占める割合は14分の1である。

凡例

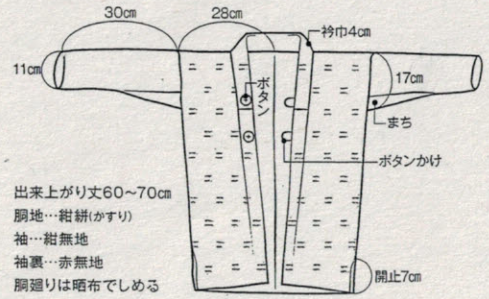
- 高根を示す
- クマ
- 数字は水深（メートル）
- 落石等の石場
- ▲ L型コンクリート投石
- ■ コンクリートブロック投石
- 建根

岩和田漁協磯根図（昭和55年頃）



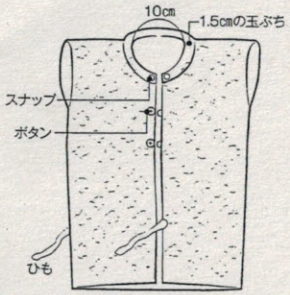
海女の装束

半トウロク



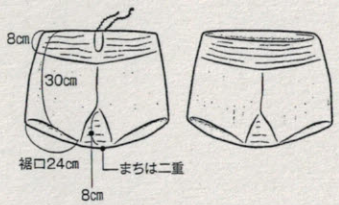
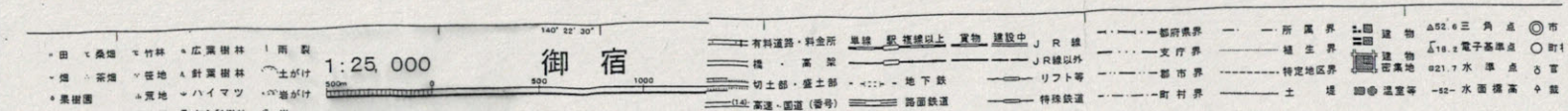
出来上がり丈60～70cm
胴地…紺絣(かすり)
袖…紺無地
袖裏…赤無地
胴廻りは晒布でしめる

カンテラ（防寒用ベスト）



表裏ネルの二枚合わせ

磯バン（前）　磯バン（後）



岩和田海女姿の基本、半トウロク、
カンテラ、磯バンの詳細。
体によく馴染むようにまちが入っている。